

カテイラン

シモヤケも軽いうちは雪や
水で摩擦しても治ります。
また大根干葉、生姜の干葉
等に熱湯を注いで熱い位の
時、その中に浸して温めら
れ治ります。生姜卸し二十

外を一升の熱湯に溶いて温
めてもよい。軽いうちは
はどうしてもなほりますが
紫色を帯び崩れやすくな
ると、治療は容易でありま
せんから、そうならないう
ちに早く治してしまふこと
が肝要です。崩れたときは
里芋の皮をむいて、たろし
金でたろしそれに生姜たろ

し一割と少量の鹽を加へ
等分のうごん粉で練つたも
のを和紙に厚くのべ、まづ
胡麻油を患部に塗りてその
上へこの膏薬を貼つてほう
たいをしておきます。乾い
た頃度々新しいのと取り
換へるやうにしてゐますと
だんく治つてまゐります

一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
平町長橋町三五
川崎文庫
(申込次第規則書進呈)

株式平銀行

第五十五期 營業報告

貸借対照表

貸付及貸越金 三、五七七、七五一、三七〇

割引及爲替手形 三、八二〇、一五二〇

他店へ貸 一七、四三三、四九〇

有價証券及諸株式 五七七、〇一三、二六〇

營業用土地建物什器 三、二六八、〇一七〇

所有不動産 三、八七二、二〇〇

現金有高 一、三三三、九三六、〇七一

合 計 四、七四五、七四〇、六七一

負債の部

資本金 五〇〇、〇〇〇、〇〇〇

諸積立金 三、二五〇、〇〇〇、〇〇〇

準備金 三、四八一、二六七、三六一

他店ヨリ借 二五八、六七〇、六四〇

未拂配當會 三、八五〇、〇〇〇

未経過引料 七六、七八六、八三〇

給付補填備金 一、三、五七四、八四〇

當期純益金 一〇〇、〇五六、〇〇〇

合 計 四、七四五、七四〇、六七一

利益金勘定 金餘五十六圓世

當期純益金

之を處分スルコト左ノ如シ

金貳萬貳千圓也 積立金

金參千圓也 行員退職給

金參千圓也 與積立金

金貳萬五千圓也 重役賞與金

(年一割)配當金

金四萬七千五百六圓也 後期繰越金

右之通ニ候也

大正拾三年一月

株式平銀行

專務取締役 山崎與三郎

取締役 堀江正直

同 高岡唯一郎

同 白井博之

監査役 木村清治

同 新田目善次郎

同 安島重三郎

東京ガスコークス

東京瓦斯ガスコークス
會社産出

大俵 一俵ニ付 貳圓七拾錢

中俵 同 壹圓八拾錢

小俵 同 壹圓六拾錢

佐藤鐵工所
コークス部
電話三六二番

優美なる味を、要する御料理に………

豪華で經濟を、貴客御家庭に………

合盛

唐本屋 廣商郎三與崎山
番七二番電町平縣島縣

株式買賣中值

左記の値段は本日標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	一一五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	一一五	一二五
四倉銀行	一一五	一二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
日七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	一一五	一四五
七七銀新	一一五	九五
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一八七
只見川電	一一五	一四七
植田水電	一一五	一四五
好間水電	一一五	一三五
磐城製糖	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	四九〇
磐城勸業	一一五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	三九〇
同 新	二二五	一七三
磐城セメント	五〇〇	八七〇
同 新	一七五	三六〇
平運送	一二五	八〇

買賣實態切實に御取扱申候間多少不拘御用命願候

平町田町電話三三三番
丸登株式會社
川添房二郎



一月廿九日夕刊

吾人に町歌を
與へよ

川崎 文治

國民が擧げて祝福すべき御慶學の日に試みた平青年團主催の提灯行列は、蛇の如く街路を埋めて全町を灯の海と化せしめた、確かに一異觀であり壯美其ものゝ極みであつた、然れ共參加者が元氣を鼓舞すべく口々に歌ふ歌は、
デカンショ
やんちゃ
鳴鶴江果ては益限迄十人十色の俗語續出、行列に一貫した秩序なく爲めに歩調は亂れ勝ちであつた。此點は

豫期以上の成功を納めた云はる、奉祝行列の爲めに甚だ遺憾とする處であるが斯かる場合に
何人にも歌はれ得べき
歌謡を有さなかつた事、其因を爲すのである事を知るに及んで寧ろうたふべき歌を持たなかつた參加者が甚だ慮まれざるものであつた事を痛切に感ずるものである、故に吾人は昨日の本紙不平受付欄に掲載された
投書
眞に平町にふさはしく、然も平人をして力強く奮躍せしめ得る町

歌の制定を乞ひ願はねばならぬ。うたふ事は人間の本能である、人間の實際生活が慰藉され鼓舞される、其源は歌の力に依つて齎らさるゝ點が甚だ多し然ればこそ國には國の歌あり、學校には學校の歌がある。歌は心の渇きを慰する泉である、結合力に於いて、平人の通有性だ、平町の職者、平人のつて居る、若し我々のうたふべき歌を得て平人の魂と魂とがシンカリ融合し如何なる場合と雖も愛町の觀念から一致協力して事に當るとすれば如何に力強きものであるか。吾人は此精神訓練の上に力大なる歌を欲し

福島縣石城郡平町
字長橋町卅五番地
常盤毎日新聞社

定價 一部金貳錢 月極 二限リ一ヶ月卅錢 廣告料 五號十三字詰 一行五十錢

刊休 日刊 大祭 曜 日 祝日の翌日 印刷所 福島縣石城郡平町田町十六番地 磐城新聞社印刷部 發行兼編輯人 川崎 文治 印刷人 川崎 文治 所行發 福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地 常盤毎日新聞社

御下賜金を基とし

保護事業の實を擧げんと

平自警會が資金を募集し 財團法人に改め一層活躍

冤因保護を目的とする平自警會では昨春紀元節に畏くも御下賜金三百圓を下賜されたので會長たる佐藤平區裁判所 檢事佐藤忠雄氏は是れを機として困難な保護事業は單に冤因のみでなく進んで其家族迄も保護し又昨年一月から實施された少年法に基き不良少年の保護指導に當らねばならぬと石城双葉の兩郡に互り

体育の奨励に注意

方法を誤れば反つて弊害 石城郡が學校や團體へ

最近非常に体育熱が勃興し各種運動競技の隆盛を見るやうになつて來た事は喜ばしき現象であるが一方其方法をあやまつた爲めに反つて疾病に冒され傷害を蒙り青年子女の風紀並びに思想上種々の弊害を及ぼさぬと限らないと云ふのは是れが監督の任にあるものは左記の事項に注意して貰ひ度いとの本縣示達に基き石城郡役所から郡内小學校及び青年團處女會等に通牒を發した

アツ危い

老爺を救助の爲め列車遅る

石城郡神谷村大字鎌田アト小屋番人加藤綱藏(七五)は昨廿八日午後五時十分頃夏井川鐵橋を通行中平驛同五時廿四分發下り列車進し來り危く轢殺されんとした其爲め列車は廿分遅延した

警察 來平

けふ初巡視の 谷口の歓迎宴

天谷本縣警察部長は濱通り巡視の爲め飯島警部補を隨

湯本地方を 荒した賊

遂に捕はる

石城郡湯本町地方で舊來盜難頻々として起り物騒千萬なので平署で犯人嚴探中二十五日警村大字白鳥嶺泉場に於て入浴中の東京の客ら現金三百餘圓を窃取せるものあり平署で活動を開始し二十七日自稱田村郡大

寒稽古納會

平署精勤十七名

平警察署武道寒稽古は去る九日より開始され署員卅二名、外來卅六名が毎日壯烈なる稽古を勵んで居たが昨廿八日午後五時から納會を催し十七名に對して精勤證書を授與した

公人私人

櫻井賢文氏(磐城高等女學校長) 近く瀧州に於て開催する、全國高等女學校長會議に出席の爲め渡瀧の會期日未定

眞面目な 性慾問題

性慾が享樂化した結果賣笑婦の如き變態生活者が顯はれるのである。動物にはそんな不自然な生活はない性の行爲から云ふと人類は超自然である而して性の浪費性の不節制が行はれるのも人間特有の生活なのである

常磐片々

體育の奨励はよいが方法を誤れば取り返しのつかぬ弊害を醸すと縣廳からお達し

成程、過ぎたるは尙及ばざるが如し

平自警會が愈々活躍

平地方唯一の社會政策的事業である同會の發展を衷心

磐女學藝會

來月廿四日に

磐城高等女學校にては來月廿四日午前九時から學藝會を開く筈だが今回は手藝品展覽會を廢し極力學藝會に主力を傾くる由

校長會議

石城郡の 議事堂にて

石城郡小學校校長會議は來月七八の兩日郡議事堂に於て開催左記事項を協議する由國民精神作興に關する方

就學獎勵金

本縣へ一萬圓

東宮殿下御慶事に際し文部

町間人事

- ▲出生 △一丁目 當時秋田縣本承町猪狩善正長男一二
- △長橋町 當時東京市淺草區田町齋藤義平二男龍夫
- △白銀町 松崎吉三郎三女キヨ子
- ▲婚姻 △石城郡好間村渡邊正二郎
- (一一) 長橋町齋藤モト
- (一二) ▲死亡 △田町 橋本龍助(六〇)
- △長橋町 丹野ノイ(五九)
- △新川町 坂本キク(二二)
- △新川町 松崎ヨツ(七三)
- △研町 長谷川つや子(二二)